

日医発第 1506 号（健Ⅱ）
令和 6 年 12 月 4 日

都道府県医師会
感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長
笹 本 洋 一

新生児におけるエコーウイルス 11 型（E-11）感染症の発生について
（注意喚起及び情報提供依頼）

今般、厚生労働省より各都道府県等衛生主管部（局）宛標記の事務連絡がなされ、本会に対しても周知方依頼がありました。

本事務連絡は、世界保健機関（WHO）によるフランスにおけるエンテロウイルス（エコーウイルス 11 型（E-11））に関連する重症新生児敗血症の症例の増加報告と、今般、日本小児科学会による日本国内における新生児の E-11 感染事例に関連して行われた注意喚起について案内するものです。この中で、新生児の E- 11 感染事例を診察した場合、保健所への情報提供ならびに必要な応じて検体（血液・消化器由来検体・呼吸器由来検体）のご提供について、協力依頼がありました。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会及び関係医療機関に対する周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

事 務 連 絡
令和 6 年 12 月 3 日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課

新生児におけるエコーウイルス 11 型 (E-11) 感染症の発生について
(注意喚起及び情報提供依頼)

2023 年 5 月 31 日、世界保健機関 (WHO) は、2022 年 7 月以降の、フランスにおけるエンテロウイルス (エコーウイルス 11 型 (E-11)) に関連する重症新生児敗血症の症例の増加を報告しました^{※1}。また、2023 年 7 月 7 日、WHO は、他の欧州諸国における新生児の E-11 感染例を報告し、一般住民の公衆衛生上のリスクは低いと評価する一方、各国に対し引き続き症例の監視と報告を奨励しています^{※2}。

今般、日本国内における新生児の E-11 感染事例に関連して、日本小児科学会より注意喚起が行われておりますので^{※3}、貴会会員にご周知の程お願いいたします。また、新生児の E-11 感染事例を診察した場合の保健所への情報提供ならびに必要な応じて検体 (血液・消化器由来検体・呼吸器由来検体) のご提供について、協力依頼をお願いいたします。

なお、本件に関する感染症サーベイランスについては、追ってお示しいたします。また、同様の事務連絡を都道府県等に発出しておりますことを申し添えます。

(※1) エンテロウイルス感染症—フランス共和国 | 厚生労働省検疫所 FORTH

https://www.forth.go.jp/topics/2023/20230606_00002.html

(※2) エンテロウイルス・エコーウイルス 11 型感染症—ヨーロッパ地域 | 厚生労働省検疫所 FORTH

https://www.forth.go.jp/topics/2023/202300707_00001.html

(※3) 新生児におけるエコーウイルス 11 による重症感染症に関する注意喚起 | 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

<https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20241202echovrus.pdf>

事 務 連 絡
令和 6 年 12 月 3 日

各 $\left(\begin{array}{c} \text{都 道 府 県} \\ \text{保健所設置市} \\ \text{特 別 区} \end{array} \right)$ 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課

新生児におけるエコーウイルス 11 型（E-11）感染症の発生について
（注意喚起及び情報提供依頼）

2023 年 5 月 31 日、世界保健機関（WHO）は、2022 年 7 月以降のフランスにおけるエンテロウイルス（エコーウイルス 11 型（E-11））に関連する重症新生児敗血症の症例の増加を報告しました※¹。また、2023 年 7 月 7 日、WHO は、他の欧州諸国における新生児の E-11 感染例を報告し、一般住民の公衆衛生上のリスクは低いと評価する一方、各国に対し引き続き症例の監視と報告を奨励しています※²。

今般、日本国内における新生児の E-11 感染事例に関連して、日本小児科学会より注意喚起が行われておりますので※³、内容について御了知の上、管下の医療機関等への周知の程お願いいたします。

また、貴管内医療機関に対して、今後、新生児の E-11 感染事例に係る情報提供について、協力依頼をお願いする予定です。貴管下保健所及び地方衛生研究所におかれましては、新生児の E-11 感染事例が発生した場合は、医療機関と連携の下、検体（血液・消化器由来検体・呼吸器由来検体等）の保存にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、本件に関しての感染症サーベイランスについては、追ってお示しいたします。また、同様の事務連絡を公益社団法人日本医師会宛てに発出しておりますことを申し添えます。

（※ 1）エンテロウイルス感染症－フランス共和国 | 厚生労働省検疫所 FORTH

https://www.forth.go.jp/topics/2023/20230606_00002.html

（※ 2）エンテロウイルス・エコーウイルス 11 型感染症－ヨーロッパ地域 | 厚生労働省検疫所 FORTH

https://www.forth.go.jp/topics/2023/202300707_00001.html

（※ 3）新生児におけるエコーウイルス 11 による重症感染症に関する注意喚起 | 日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

<https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20241202echovrus.pdf>

2024 年 12 月 1 日

新生児におけるエコーウイルス 11 による重症感染症に関する注意喚起

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

概要

ヨーロッパでは 2022 年から新生児のエコーウイルス 11 (Echovirus 11、以下 E11) による重症感染症が複数報告され、急性肝不全を伴うことが特徴的で死亡例も複数報告されている¹⁾。

日本においても 2024 年夏以降東京などで、E11 による新生児重症肝炎やそれに伴う死亡例の情報があるため、特に小児科ならびに新生児科診療に関わる医療従事者に対して注意喚起を行う。

エコーウイルス 11 (E11) について

E11 はピコルナウイルス科エンテロウイルス属に属する (+) 鎖の一本鎖 RNA をゲノムにもつウイルスである。コクサッキーウイルスなど他のエンテロウイルス属と同様に、普通感冒、ヘルパンギーナなどの自然軽快する軽症感染症や、時に無菌性髄膜炎、脳炎、心筋炎などの重症感染症の原因となる。一方で、E11 を含む非ポリオ型エンテロウイルスの特徴として、感染しても多くの場合は無症状である。糞口感染および接触感染、飛沫感染を起こす。エンベロープを有さないため、消毒用エタノールによる消毒では効果が不十分である。潜伏期間は通常 3～6 日である。

新生児の重症 E11 感染症について

新生児が E11 に感染すると、敗血症、心筋炎、髄膜炎などの重篤な疾患を発症することがある。新生児の重症 E11 感染症の特徴的な臨床像は、黄疸、肝腫大、腹水、および出血傾向を示す劇症肝炎である²⁾。また、髄膜炎や心筋炎の報告もある²⁾。国内でも過去に報告がある³⁾。

過去に報告された新生児の E11 感染症では、垂直感染（出生前の経胎盤感染や出産時感染）、出生後の水平感染、保育所での水平感染⁴⁾や医療従事者による新生児集中治療室でのアウトブレイク⁵⁾が報告されている。授乳による感染の可能性も報告されている²⁾。

疫学情報

2022 年 7 月から 2023 年にかけてフランスでは肝不全と高い致死率の新生児重症 E11 感染症が増加していることが 2023 年 6 月に欧州連合/欧州経済領域加盟国に報告されると、他の加盟国からも同様の報告が相次いだ²⁾。重症例に関連する E11 の配列は、2022 年に

出現した新しい変異系統株（以下、新系統 1）にクラスター化していた¹⁾。同時期（2023 年）にイタリアで同じ新系統 1 に関連する重症肝炎の 2 症例が報告され⁶⁾、全ゲノム解析により、重症で致死的な症例はすべて組換え E11 に関連していることが示された⁶⁾。2023 年 7 月、欧州疾病予防管理センターは、フランスで初めて検出された新系統 1 がより重篤な疾患と関連しているかどうかを評価するため、新生児重症 E11 感染症に関するサーベイランスを強化した²⁾。スペインでは新系統 1 による新生児における重症化との関連は認められていない⁷⁾。

一方、中国湖北省、広東省では 2019 年に、新系統 1 ではない E11 による新生児の出血性肝炎症候群の複数例の報告がある⁸⁾。

今後日本においても E11 感染症流行の動向に注意を払う必要があるが、2024 年 11 月 24 日現在、国立感染症研究所が全国の都道府県市の地方衛生研究所等から報告された病原体検出情報をまとめた病原微生物検出情報によると、2024 年第 34 週以降に、複数の無菌性髄膜炎患者から E11 が検出されている⁹⁾。

医療従事者の皆様へ

国内でも、活気不良・哺乳不良を主訴に来院し、凝固障害、血球減少、黄疸・急性肝不全、腎障害を含む多臓器不全や高フェリチン血症（血球貪食性リンパ組織球症）などの重篤な症候を呈し、鼻咽頭ぬぐい液を用いた Multiplex PCR にてライノウイルス/エンテロウイルス、髄液でエンテロウイルスが検出されている重症の新生児症例が経験されている。有症状者との接触歴が明確でないこともある。新生児の重症肝不全や心筋炎、無菌性髄膜炎などの重症患者を診療した場合、可及的に急性期の血漿（血清）、鼻咽頭ぬぐい液、尿、便、髄液、全血等の検体を小分けで凍結保存しておくことで病原体検索に繋がる可能性がある。検査が可能な機関にすぐに臨床検体を搬送できる場合は、凍結せずに冷蔵で搬送する方が望ましい。原因不明の肝機能障害（AST 又は ALT が 500 U/L を超える）を認める児については、日本小児科学会を窓口とした病原体の検索が可能な場合がある。詳細は、日本小児科学会ホームページ（[各種活動>予防接種・感染症情報>原因不明の小児の急性肝炎について](#)）をご参照いただきたい。また、エンテロウイルスであった場合、アルコール消毒では効果が不十分であることに留意し、特におむつ交換や沐浴に際し石鹸と流水による手指衛生、環境整備を行う必要がある。

参考文献

- 1) Grapin M, Mirand A, Pinquier D, et.al. Severe and fatal neonatal infections linked to a new variant of echovirus 11, France, July 2022 to April 2023. *Euro Surveill* 2023; 28 :2300253.
- 2) European Center for Disease Prevention and Control (ECDC) . "Epidemiological update: Echovirus 11 infections in neonates". <https://www.ecdc.europa.eu/en/news-events/epidemiological-update-echovirus-11-infections-neonates>(参照 2024-11-21)
- 3) Hirade T, Abe Y, Ito S, et.al. Congenital Echovirus 11 Infection in a Neonate. *Pediatr Infect Dis J* 2023; 42: 1002-1006.
- 4) Bina Rai S, Wan Mansor H, Vasantha T, et.al. An outbreak of echovirus 11 amongst neonates in a confinement home in Penang, Malaysia. *Med J Malaysia* 2007; 62: 223-226.
- 5) Ho S Y, Chiu C H, Huang Y C, et.al. Investigation and successful control of an echovirus 11 outbreak in neonatal intensive care units. *Pediatr Neonatol* 2020; 61: 180-187.
- 6) Piralla A, Borghesi A, Di Comite A, et.al. Fulminant echovirus 11 hepatitis in male non-identical twins in northern Italy, April 2023. *Euro Surveill* 2023; 28 :2300289.
- 7) Fernandez-Garcia M D, Garcia-Ibanez N, Camacho J, et.al. Enhanced echovirus 11 genomic surveillance in neonatal infections in Spain following a European alert reveals new recombinant forms linked to severe cases, 2019 to 2023. *Euro Surveill* 2024; 29 :2400221.
- 8) Wang P, Xu Y, Liu M, et.al. Risk factors and early markers for echovirus type 11 associated haemorrhage-hepatitis syndrome in neonates, a retrospective cohort study. *Front Pediatr* 2023; 11: 1063558.
- 9) 病原微生物検出情報（IASR） . "週別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス分離・検出報告数、2020～2024年". <https://kansen-levelmap.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data16j.pdf> (参照 2024-11-21)